




令和2年3月期 第2四半期決算説明資料

令和元年12月
株式会社N F Kホールディングス
東証JASDAQ（証券コード6494）

-  令和2年3月期 第2四半期 決算概要
-  令和2年3月期 通期業績の見通し
-  参考資料

1

令和2年3月期 第2四半期 決算概要

2

令和2年3月期 通期業績の見通し

3

参考資料

連結損益計算書



(単位：千円)

	平成31年3月期 第2四半期(累計)	令和2年3月期 第2四半期(累計)	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率
売上高	960,121	1,362,070	401,949	41.86%
売上総利益	221,162	268,373	47,211	21.35%
販売費及び 一般管理費	260,663	274,282	13,618	5.22%
営業利益(損失)	△39,501	△5,908	33,592	—
経常利益(損失)	△33,197	△8,944	24,253	—
税金等調整前 四半期純利益(損失)	△33,197	△8,944	24,253	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益(損失)	△37,475	△13,034	24,440	—
四半期包括利益(損 失)	△29,994	△11,932	18,062	—
EBITDA	△30,582	3,276	33,858	—

※EBITDA= (営業損失△5,908+減価償却費5,908)

< 案件規模別 >

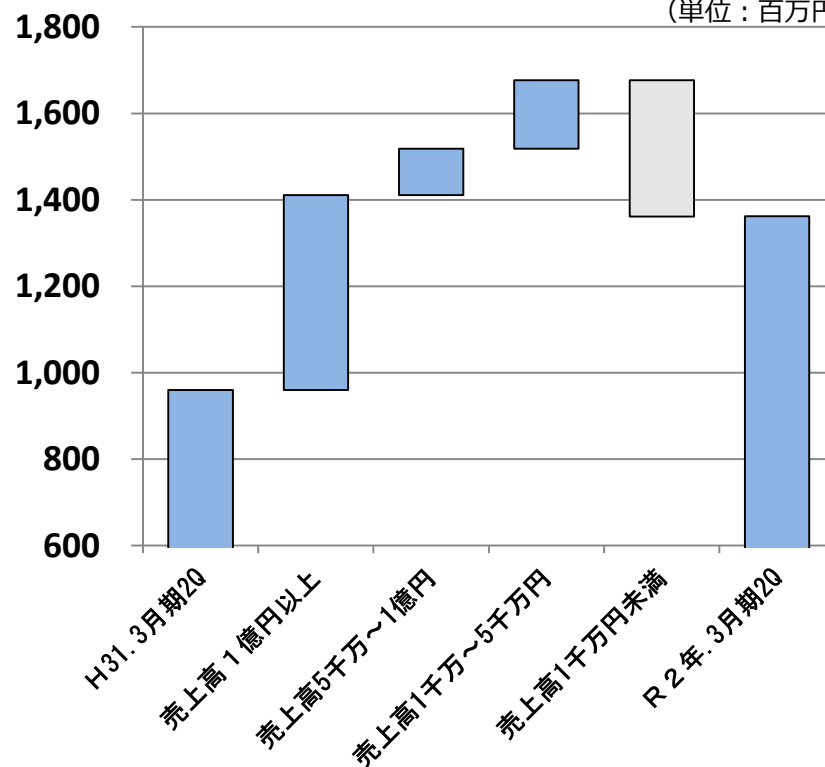
(単位：千円)

	平成31年3月期 第2四半期(累計)	令和2年3月期 第2四半期(累計)	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率
売上高	960,121	1,362,070	401,949	41.86%

(単位：千円)

	売上高増減
平成31年3月期第2四半期実績	960,121
売上高1億円以上の案件増加分	451,878
売上高5千万円以上の案件増加分	107,354
売上高1千万円以上の案件増加分	159,631
売上高1千万円未満の案件増加分	△316,913
令和2年3月期第2四半期実績	1,362,070

(単位：百万円)



- ・大型案件の売り上げが集中
- ・一千万円以上の案件が大幅に増加

売上高増減の内容

< 部門別 >

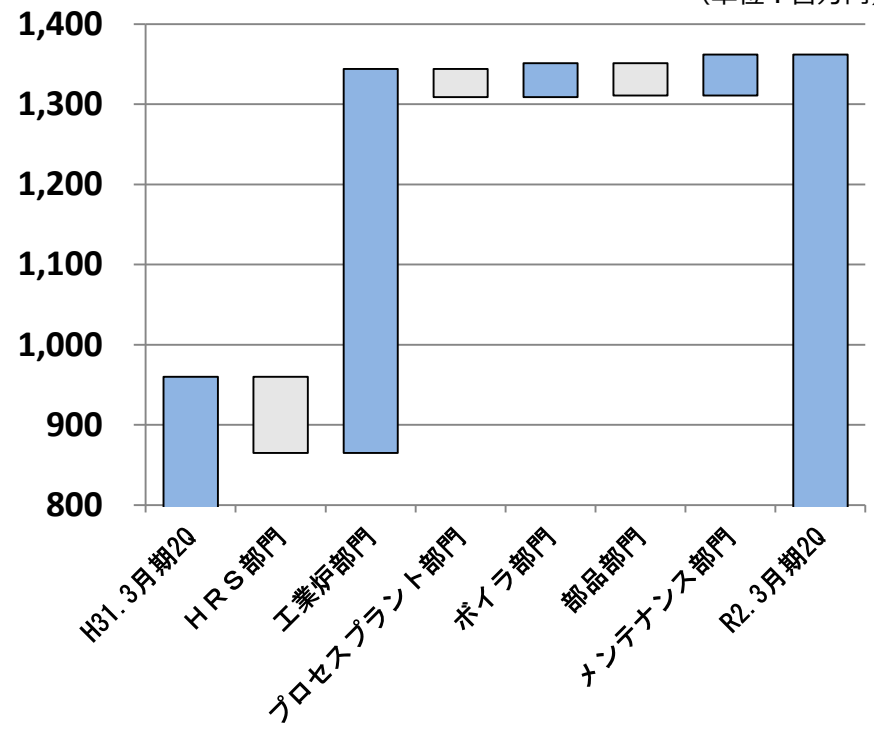
(単位：千円)

	平成31年3月期 第2四半期(累計)	令和2年3月期 第2四半期(累計)	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率
売上高	960,121	1,362,070	401,949	41.86%

(単位：千円)

	売上高増減
平成31年3月期第2四半期実績	960,121
HRS部門	△95,051
工業炉部門	479,235
プロセスプラント部門	△35,821
ボイラ部門	42,507
部品部門	△40,262
メンテナンス部門	51,341
令和2年3月期第2四半期実績	1,362,070

(単位：百万円)



- ・大型案件が集中している工業炉部門が大幅増
- ・プロセスプラント部門が低調に推移

営業利益増減の内容

(単位：千円)

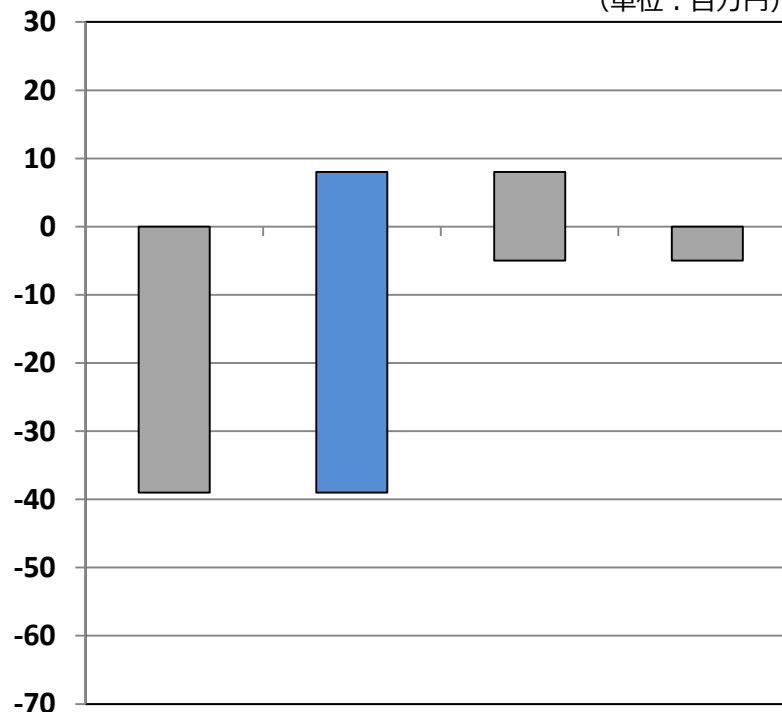
	平成31年3月期 第2四半期(累計)	令和2年3月期 第2四半期(累計)	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率
営業利益(損失)	△39,501	△5,908	33,592	—

(単位：千円)

	営業利益増減
平成31年3月期第2四半期実績	△39,501
売上総利益の増加	47,211
販売費及び一般管理費の増加	13,618
令和2年3月期第2四半期実績	△5,908

- ・売上高増加に伴う売上利益の増加
 - ・販売費及び一般管理費の増加
- コスト削減に努めるも、
総会費用や未払い賃金の清算などが発生。

(単位：百万円)



H31.3月期2Q 売上総利益 販管費増減 R2.3月期2Q

連結貸借対照表



(単位：千円)

科目	平成31年 3月期末	令和2年3月期 第2四半期 (累計)	増減額
流動資産	2,885,161	2,806,647	△78,514
固定資産	1,176,336	1,171,682	△4,653
資産合計	4,061,497	3,978,329	△83,167
流動負債	887,695	833,570	△54,124
固定負債	376,901	361,995	△14,906
負債合計	1,264,597	1,195,565	△69,031
資本金	2,131,532	2,131,532	0
資本剰余金	40,280	40,280	0
利益剰余金	182,980	169,945	△13,034
自己株式	△210	△210	0
株主資本合計	2,354,581	2,341,547	△13,034
その他の包括利 益累計額合計	442,318	441,216	△1,102
純資産合計	2,796,900	2,782,763	△14,136
負債純資産合計	4,061,497	3,978,329	△83,167

(単位：百万円)

() 内は前期末比増減

【流動資産】	
現金・預金	1,195百万円 (△85 百万円)
受取手形・売掛金	1,040百万円 (△53 百万円)
仕掛品	163百万円 (41 百万円)
【固定資産】	
土地・建物等	768百万円 (△3 百万円)
投資有価証券	300百万円 (△23 百万円)
保険積立金	20百万円 (0 百万円)
【流動負債】	
支払手形・買掛金	338百万円 (△224 百万円)
短期借入金	74百万円 (54 百万円)
前受金	15百万円 (6 百万円)
未払法人税等	6百万円 (△13 百万円)
【固定負債】	
再評価に係る繰延税金負債	196百万円 (0 百万円)
退職給付に係る負債	156百万円 (△15 百万円)

財務指標

	平成31年 3月期末	令和2年3月期 第2四半期
自己資本比率	68.9%	69.9%
有利子負債	26百万円	80百万円

部門別売上高



(単位：千円)

	平成31年3月期 第2四半期（累計）		令和2年3月期 第2四半期（累計）		前年同四半期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	増減率
工業炉燃焼装置関連事業	959,221	99.91%	1,361,170	100.00%	401,949	41.90%
HRS部門	257,727	26.84%	162,676	11.94%	△95,051	△36.88%
工業炉部門	181,080	18.86%	660,315	48.48%	479,235	264.65%
プロセスプラント部門	151,821	15.81%	116,000	8.52%	△35,821	△23.59%
ボイラ部門	76,248	7.94%	118,755	8.72%	42,507	55.75%
部品部門	179,292	18.67%	139,030	10.21%	△40,262	△22.46%
メンテナンス部門	113,050	11.77%	164,391	12.07%	51,341	45.41%
その他の事業	900	0.09%	900	0.07%	0	41.90%
合 計	960,121	100.00%	1,362,070	100.00%	401,949	41.86%

部門別受注状況



(単位：千円)

	平成31年3月期 第2四半期（累計）		令和2年3月期 第2四半期（累計）		前年同四半期比	
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高増減額	受注残増減額
工業炉燃焼装置関連事業	1,379,198	1,309,286	1,464,877	1,412,993	85,679	103,707
HRS部門	244,941	71,579	242,505	151,408	△2,436	79,829
工業炉部門	477,007	407,202	482,074	228,961	5,067	△178,241
プロセスプラント部門	277,183	457,078	89,011	430,089	△188,172	△26,989
ボイラ部門	81,689	149,203	283,356	313,804	201,667	164,601
部品部門	176,688	50,150	158,665	69,785	△18,023	19,635
メンテナンス部門	121,690	174,074	209,260	218,943	87,570	44,869
その他の事業	—	—	—	—	—	—
合 計	1,379,198	1,309,286	1,465,777	1,412,993	86,579	103,707

★決算総括

- 前期に続き、好調な自動車関連企業への受注が堅調
- 受注は順調に推移しており、受注残14億円を確保
- 株主提案に関する株主総会費用、未払い賃金等の支払いがあったことから第2四半期は損失計上となったが通期目標については達成の見込み

1

令和2年3月期 第2四半期 決算概要

2

令和2年3月期 通期業績の見通し

3

参考資料

令和2年3月期 業績予想



(単位:百万円)

科目	平成31年3月期		令和2年3月期	
	第2四半期 累計 (実績)	通期 (実績)	第2四半期 累計 (実績)	通期 (予想)
売上高	960	2,500	1,362	2,500
営業利益(損失)	△39	80	△5	80
経常利益(損失)	△33	80	△8	80
税前当四半期(当期) 純利益(損失)	△33	80	△8	80
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益(損失)	△37	60	△13	60
1株当たり四半期 (当期) 純利益(損失)	△1.22円	1.95円	△0.42円	1.95円

好調な自動車関連企業への積極的な受注活動を継続
通気業績予想は達成を見込む

1

令和2年3月期 第2四半期 決算概要

2

令和2年3月期 通期業績の見通し

3

参考資料

会社概要 & 沿革



会社概要

平成30年3月現在

商号	株式会社N F Kホールディングス	事業内容	持株会社（燃烧装置関連事業）
本社	横浜市鶴見区尻手2丁目1番53号	事業所 ※	横浜市鶴見区 / 大阪 / 豊田 / 静岡工場
代表者	代表取締役社長 持田 晋	関連会社	連結子会社1社、持分法適用会社1社
設立	1950年4月12日	決算日	3月31日
資本金	2,307百万円	発行済み株式数	34,313,342株
売上高	2,502百万円（平成31年3月期連結）	上場証券取引所	東証JASDAQ（証券コード：6494）
従業員	89名	単元株式	100株

※子会社含む

沿革

年月	主な出来事
昭和25年 4月	日本火熱工業材料株式会社を設立
昭和25年 6月	日本ファーネス工業株式会社に商号変更
昭和37年 8月	横浜市鶴見区に本社事務所建設
昭和38年 5月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成11年 6月	鶴見工場売却
平成16年 12月	ジャスダック証券取引所に上場
平成18年 10月	商号を株式会社N F Kホールディングスに変更
平成18年 10月	日本ファーネス株式会社（現・連結子会社）を設立
平成20年 10月	株式会社ファーネスE Sを設立
平成25年 6月	日本ファーネス燃烧技術研究所設立
平成30年 4月	日本ファーネス株式会社を存続会社、株式会社ファーネスE S消滅会社とする子会社合併を実施

企業理念および企業グループ

NFKホールディングス 企業理念

当社は長年培った燃焼技術を基に、絶え間ない努力とチャレンジによって、最先端技術を社会に提供し、地球環境保全と循環型社会の実現に貢献するとともに、株主の皆様は勿論、企業を支えるお客様や取引先、社員、地域社会等の全てのステークホルダーの繁栄を目指して事業活動を行います。

企業集団の構成



会社名	事業内容	売上高
日本ファーンエス株式会社	燃焼関連装置製造販売	2,500百万円

※株式会社リロ・ジャパンは令和元年9月に株式会社サン・イに商号変更致しました。
 ※株式会社サン・イは持分法適用関連会社となります。
 ※株式会社日本ファーンエスと株式会社ファーンエス E Sは平成30年4月1日付で合併致しました。

- 石油精製、石油化学、窯鉱業等の各種プラント用燃焼装置や加熱装置、環境に配慮した焼却設備やプロセス装置、廃液廃ガス焼却装置が主力。

【主な取り扱い製品】

- ロータリーキルン用バーナ ⇒ セメントメーカー
- 熱風発生炉・加熱炉 ⇒ 石油・化学関連企業
- 廃液・排ガス・焼却設備 ⇒ 化学関連企業、天然ガス関連企業

Pickup !

- 廃液 & 廃ガス燃焼装置
天然ガスプラントや化学工場などで発生する廃ガス&廃液を無害化。現在、当社の主力商品の1つとなっている。

ロータリーキルンバーナ



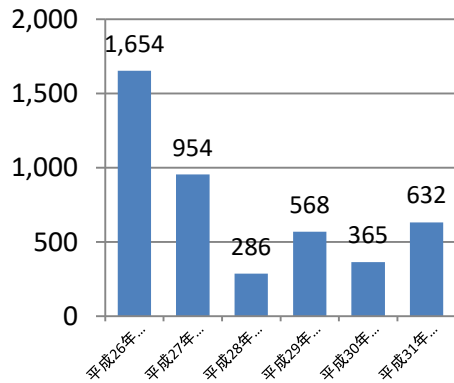
特殊熱風発生炉(高压型)



空気加熱炉



売上高推移 (単位:百万円)



HRS-UXバーナ



硫黄回収装置



廃液&廃ガス燃焼装置



燃焼機事業

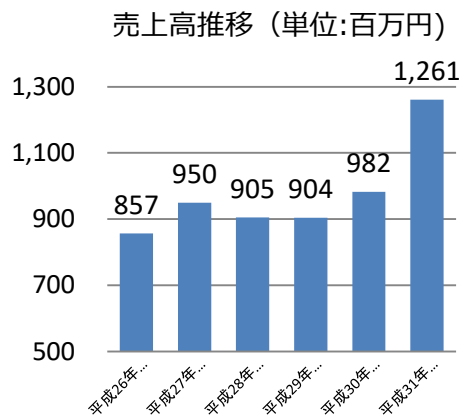
- 高効率で低NOx性に優れたボイラ用バーナ、各種バーナなど、最新の熱技術によるバーナ製品を設計・製造・販売。

【主な取り扱い製品】

- ボイラ用バーナ、ガラスエコマイザー ⇒ ボイラメーカー
- ラジアントチューブバーナ ⇒ 鉄鋼関連企業

Pickup !

- 蓄熱式ラジアントチューブ燃焼システム
高温空気燃焼技術を鉄鋼用熱処理炉など各種熱処理炉に適用可能かつ低NOxを同時達成。ラジアントチューブ用ハニカム内蔵型リジェネレイティブバーナ。



平成31年3月期は旧ES社を当該部門に吸収

水素バーナ



ULN型低NOxバーナ



ガラス製熱交換器



連続焼鈍設備用HRSRTバーナ



鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



■セラミックハニカム（蓄熱材）搭載のリジェネレイティブバーナを適用した高性能工業炉を数多く提供。

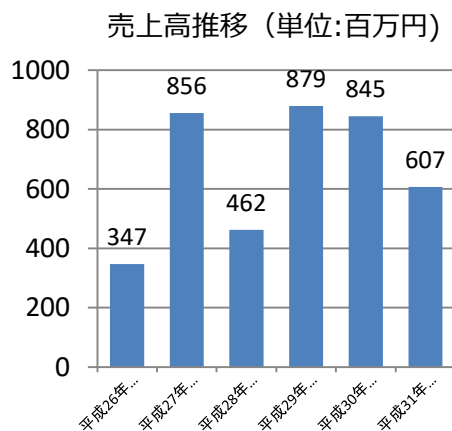
【主な取り扱い製品】

- バスケットレス回転炉、各種連続炉 ⇒ 自動車メーカー、自動車部品メーカー
- 各種熱処理炉、台車型焼鈍炉 ⇒ 熱処理関連企業、金属加工企業

Pickup !

■ バスケットレス回転炉

日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器『経済産業大臣賞』受賞。バスケットレス化を実現したことにより、従来製品より42%もの省エネ化を実現。多くの国内自動車メーカーに採用されている。



バスケットレス多段回転炉



2階建A L 鋳物 T 6 熱処理炉



多目的合金鋼バッチ炉



焼鈍用台車炉



バッチ式熱処理炉(直火式)



大型案件受注状況

★大型案件受注状況

(令和2年3月期受注案件)

自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備の受注。
売上高計約1.4億円。

(平成31年3月期受注案件)

自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備の受注。
売上高計約2.6億円。

自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備改造の受注。
売上高計約1.1億円。

大手鉄鋼会社様より、廃液焼却設備の受注。
売上高計約1.3億円。

(平成30年3月期受注案件)

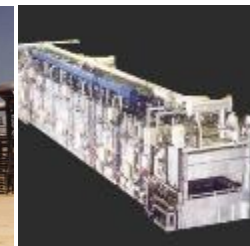
自動車関連会社様より、各種アルミ熱処理設備の受注。
売上高約1.5億円。

大手鉄鋼会社様より、予熱用バーナ設備の受注。
売上高約1.1億円。

硫黄回収装置



自動車用ガラス曲加工炉



インシネレータ
(廃ガス廃液焼却炉)



大型加熱炉



2階建 A L 鋳物 T 6 熱
処理炉



バスケットレス回転炉



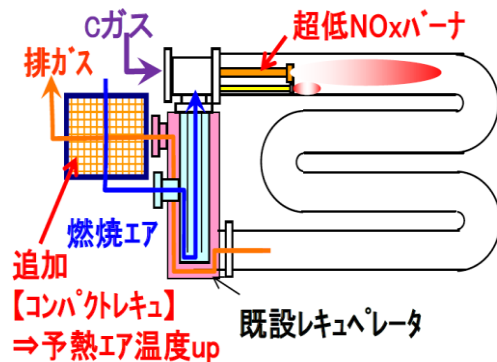
各種受賞歴

受賞年	対象	受賞内容
2018年	自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器会長賞 (共同受賞)
2015年	省エネルギー功労賞 (当社職員)	(一財)省エネルギーセンター
2014年	高温水蒸気ガス化技術によるバイオマス化システム	米国機械技術者協会ランディスメダル賞
2009年	多段熱回収システム搭載型コンパクト水素製造装置	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器会長賞 (共同受賞)
2006年	バスケットレス多段回転炉床式アルミニウム合金熱処理炉	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器 『経済産業大臣賞』
2006年	高温空気燃焼制御技術の研究開発	(社)日本エネルギー学会 学会賞 (共同受賞)
2004年	熱利用技術の発展のためのマネジメント能力およびリーダーシップ	米国機械技術者協会ランディスメダル賞 (共同受賞)
2001年	高温空気燃焼装置の開発	米国機械技術者協会ジョージ・ウエスティングハウス・銀賞
2000年	環境調和型蓄熱式低NOx燃焼技術	(一社)日本発明協会発明実施功績賞並びに発明賞 (共同受賞)
1999年	HRS燃焼システム	(公財)大河内記念会 大河内記念大賞 (共同受賞)
1999年	高性能工業炉開発プロジェクト	(社)日本工業炉協会 日経地球環境技術大賞
1999年	中・小口径HRSラジアントチューブバーナ	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器表彰 (共同受賞)
1999年	小型高純度水素製造装置	(社)日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器表彰 (共同受賞)

「自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ」

～～ 平成29年度日本機械工業連合会会長賞を受賞 ～～
(J F Eスチール株式会社様との共同受賞)

- ☆ 連続焼鈍炉をはじめとする熱処理用ラジアントチューブバーナ
- ★ 排ガスを再循環させる新発想の超低NO_xバーナとコンパクトレキュペレータ
- ☆ 世界トップレベルの低NO_x性能を実現
- ★ 既に、導入実績もあり、省エネ性能についても実証済み



自己排ガス再循環型ラジアントチューブバーナ



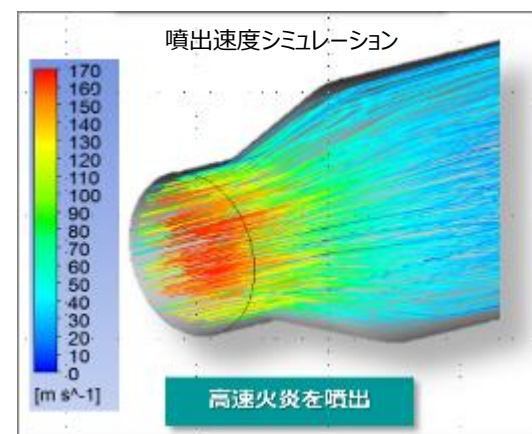
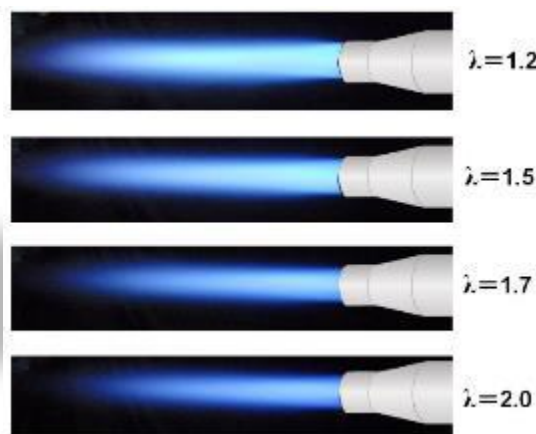
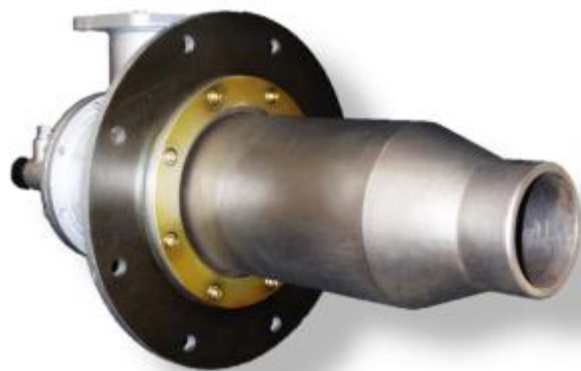
日本ファーンエス株式会社ならびにJFEスチール株式会社様
関係者一同

NFK-JSA型 ハイスピード バーナ

戦略的新製品 NFK-JSA型 ハイスピード バーナ

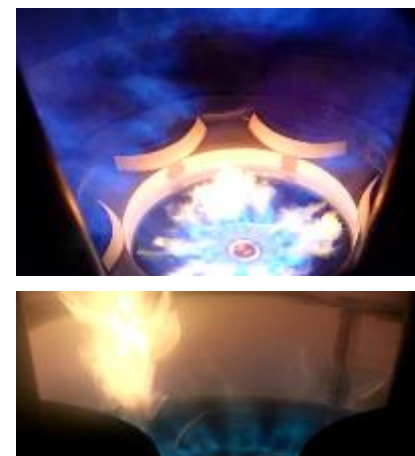
(NFK-Jet Swirl Air Flow バーナ納入開始)

- 150m/s 以上の高速流火炎噴出で炉内を攪拌、炉内ガス巡回を促進
- 炉内循環ファンなしでも温度分布を良好に維持
- 低空気比から高過剰空気比に対応
- ダイレクト点火方式の為パイロットバーナ・バーナタイル不要
- 非常に小型・軽量化を実現
- 平成29年3月期より納入を開始。台車式熱処理炉等に配備



SRX-Eバーナ 平成29年7月 特許取得 (石油加熱炉用低NOxバーナ)

- ・海外製油所向けバーナ市場での競争力強化
- ・既存顧客への競合他社攻勢を排除し交換需要に対応
- ・国内シェア巻き返しとアジア、中東でのシェア拡大
- ・シェア拡大によりメンテ・部品交換ベースを拡大
- ・日本ファーンズ燃焼技術研究所で実証実験済み



パーシャル・ハイモーメントバーナ

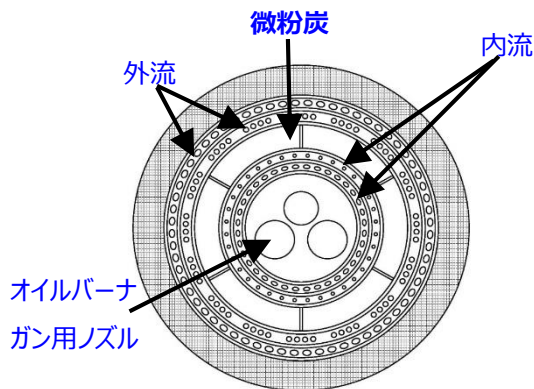
パーシャル・ハイモーメントバーナ 平成29年9月 実用新案登録 (ロータリーキルン用)

- ・ 1次空気外流をハイモーメント化
- ・ 1次空気内流は通常どおり

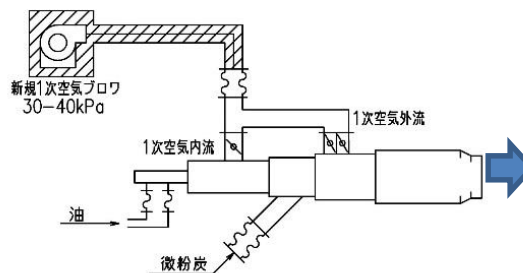
- ① 高い火炎制御性
- ② 高い燃焼効率
- ③ 温度分布範囲拡大



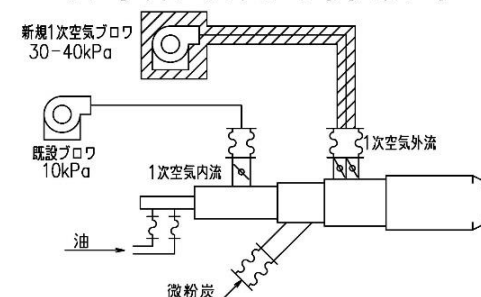
NFK HiCDF バーナ



ハイモーメントバーナ



パーシャル・ハイモーメントバーナ



☆ 日本ファーンズ燃焼技術研究所

宮崎県西都市に日本ファーンズ燃焼技術研究所を保有。
各種大型バーナを対象にした燃焼試験システムにより
「技術のN F K」の再確立に向けて取り組んでおります。

開発実績

- ・N F K H i C D Fバーナ（ロータリーキルン用ハイモーメントムバーナ）
- ・S R X - Eバーナ（石油加熱炉用低NO_x型バーナ）



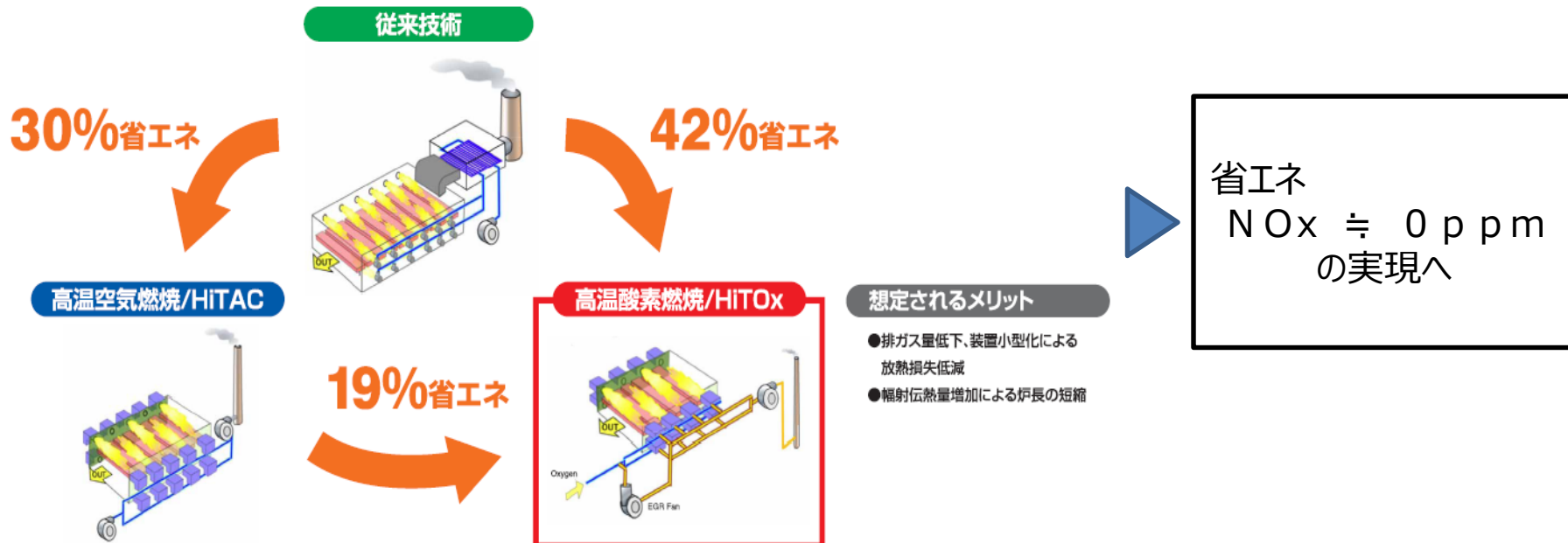
高温酸素燃焼技術HiTOxの開発

高温空気燃焼技術を発見し、その開発をリードした
NFKグループの新たな挑戦

■ 高温酸素燃焼装置とは？

従来の空気を使った燃焼では無く、純粋な酸素を高温にして燃焼させることにより、排ガス量低下による効率化を実現するとともに、NOx = 0レベルの燃焼を実現する事が可能となる。

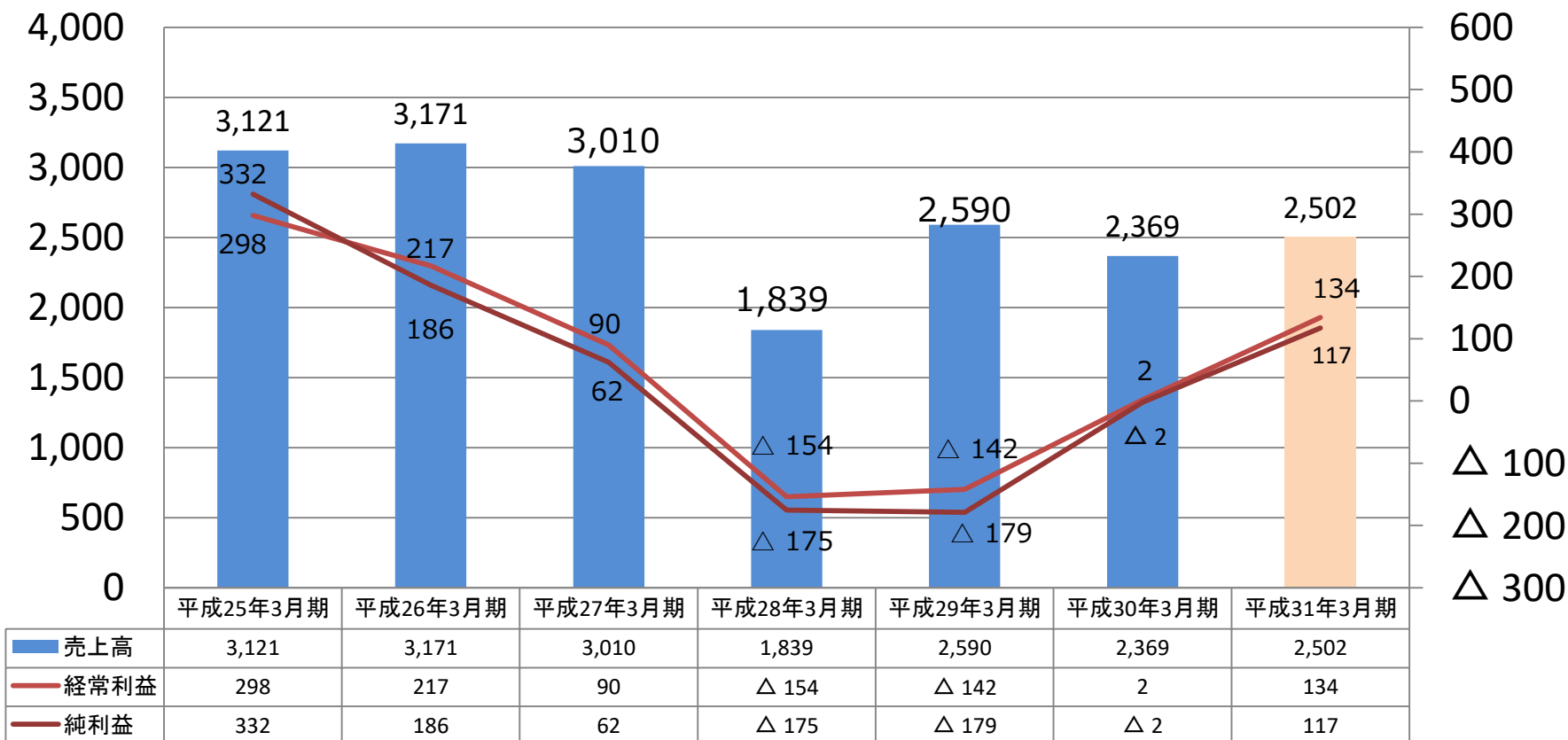
高温酸素燃焼の工業的な利用方法（連続鉄鋼加熱炉の場合）



■ 急激な原油価格の変動により平成28年3月期は厳しい状況となるが、現在は回復傾向へ

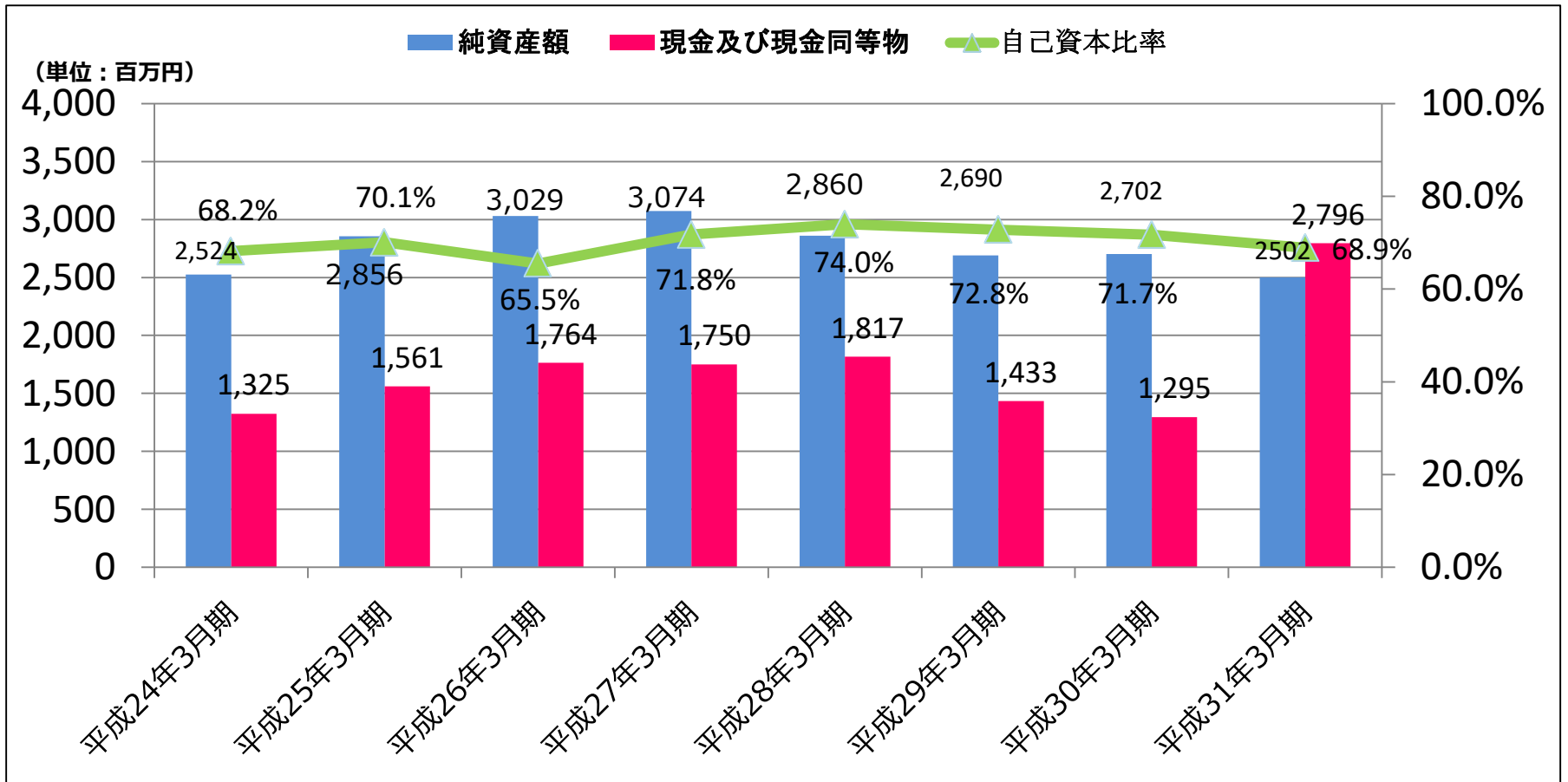
(単位：百万円)

売上高、経常利益、純利益の推移



財務状況の推移

- 高い自己資本比率を堅持
- 純資産に占める現金および現金同等物の比率が高い
- 健全で安定した財務状況



本資料に関するお問い合わせ

株式会社 N F Kホールディングス I R 企画室

TEL : 045-575-8000

E-MAIL : ir@nfk-hd.co.jp

★注意事項 本資料に記載されている計画・戦略・見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待・見積り・予想に基づいております。これらの期待・見積り・予想は経済情勢や競争環境の変化等の潜在的なリスク・不確定要素、仮定の影響を受けますので、実際の実績は見通しとは異なる可能性があります。

また、当社は新しい情報・将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する責務を負うものではありません。

